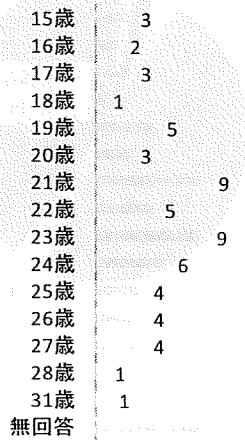
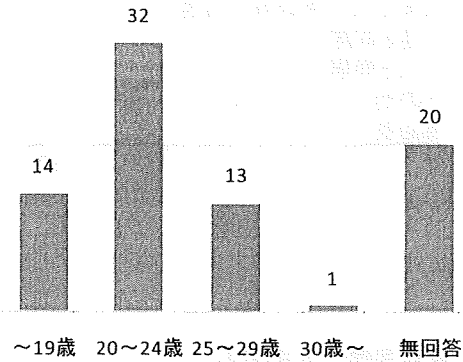


1. 調査協力者について

● 年齢

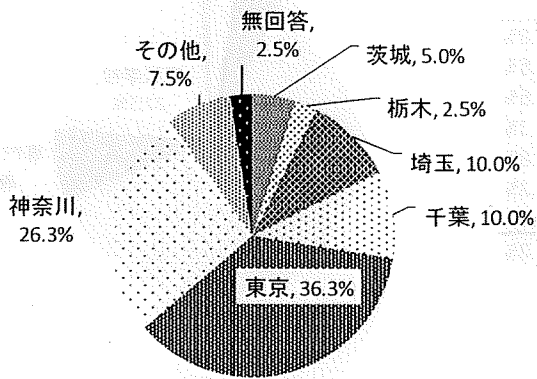


20
n=80



n=80

● 居住地



● 居住地と出身地

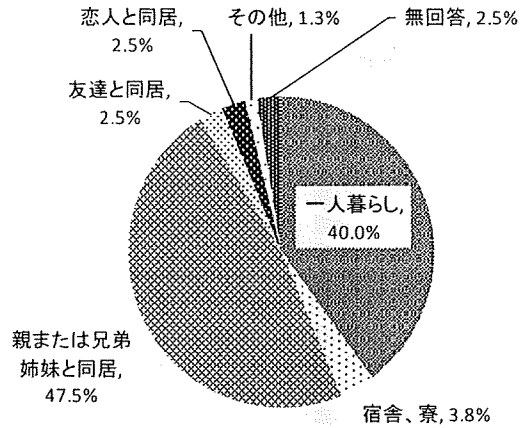
居住地と出身地

茨城	4	神奈川	21
茨城	3	北海道	1
東京	1	千葉	1
栃木	2	神奈川	10
栃木	1	長野	1
神奈川	1	静岡	2
埼玉	8	新潟	1
埼玉	7	大阪	1
東京	1	兵庫	1
千葉	8	三重	1
千葉	7	広島	1
兵庫	1	フィリピン	1
東京	29	青森	1
福島	2	京都	1
栃木	1	宮城	1
埼玉	2	鹿児島	1
千葉	1	愛知	1
東京	10	岐阜	1
神奈川	2	京都	1
新潟	1	京都	1
富山	2	広島	1
大阪	2	広島	1
兵庫	1	Australia, Perth	1
高知	1	Malaysia	1
福岡	2	無回答	2
佐賀	1	神奈川	1
中国	1	無回答	1
		計	80

● 居住形態

表3 居住形態

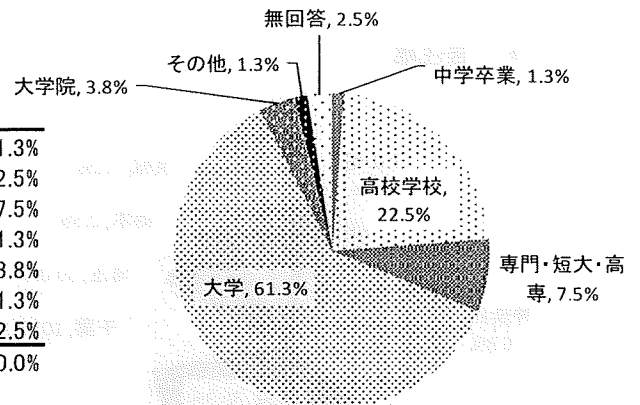
一人暮らし	32	40.0%
宿舎、寮	3	3.8%
親または兄弟姉妹と同居	38	47.5%
友達と同居	2	2.5%
恋人と同居	2	2.5%
その他	1	1.3%
無回答	2	2.5%
計	80	100.0%



● 最終学歴 (在学含む)

表4 最終学歴

中学卒業	1	1.3%
高等学校	18	22.5%
専門・短大・高専	6	7.5%
大学	49	61.3%
大学院	3	3.8%
その他	1	1.3%
無回答	2	2.5%
計	80	100.0%

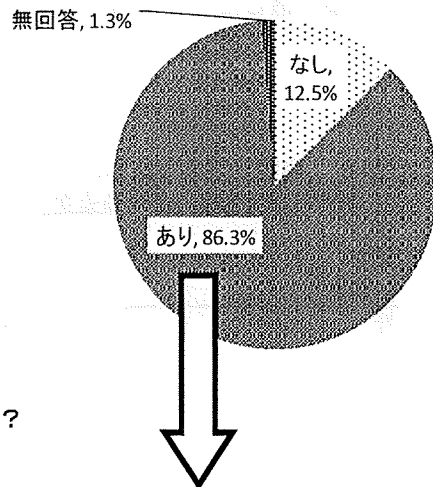


2. 「同性を好きであること」による悩み

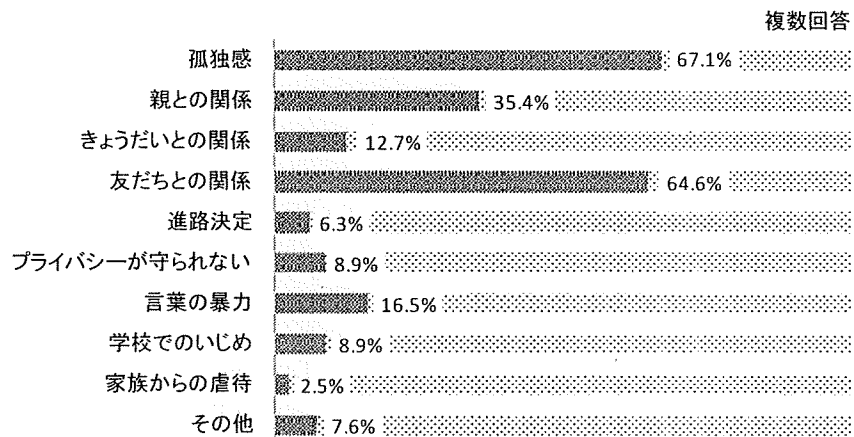
- これまでに「同性を好きであること」によって悩んだことはありますか？

表5 性的指向による悩みの経験

なし	10	12.5%
あり	69	86.3%
無回答	1	1.3%
計	80	100.0%



- どんなことで悩んだ、もしくは悩んでいますか？

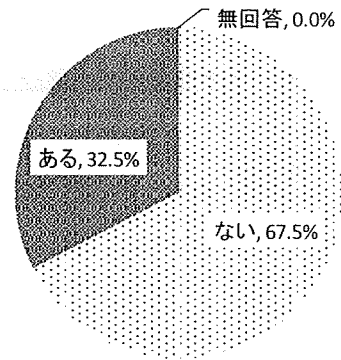


3. 「同性を好きであること」による進路選択における不利益

- これまでに、「同性を好きであること」ことで、進路選択や就学・就職・就業について不利益を感じたことはありますか？

表16 「同性を好きであること」によって進路選択で不利益を感じることがあるか

ない	54	67.5%
ある	26	32.5%
無回答	0	0.0%
計	80	100.0%

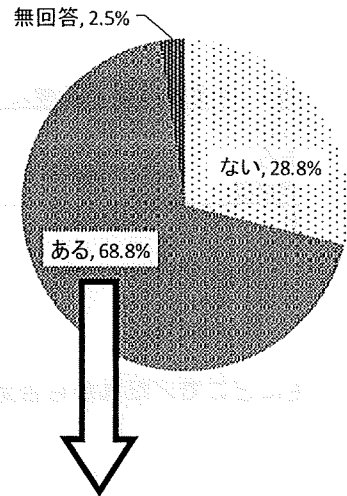


4. 「同性を好きであること」によるメリット

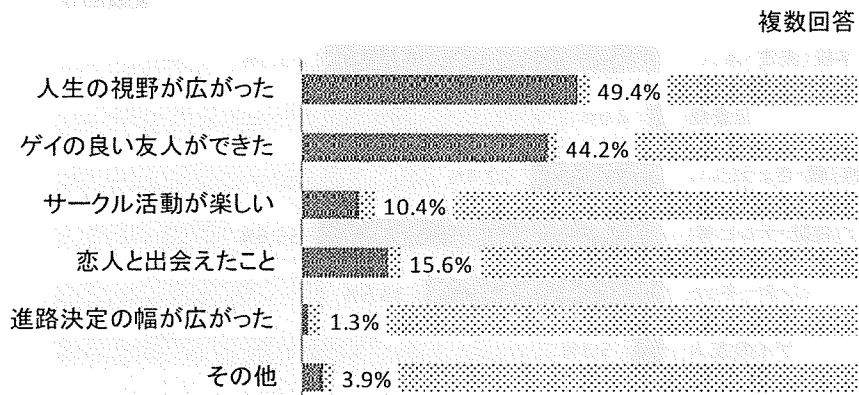
- 「同性を好きであること」によってこれまでメリット（良かったこと）を感じたことはありますか？

表7 性的指向によるメリットを感じたことがある

ない	23	28.8%
ある	55	68.8%
無回答	2	2.5%
計	80	100.0%



- どんなメリットを感じましたか？

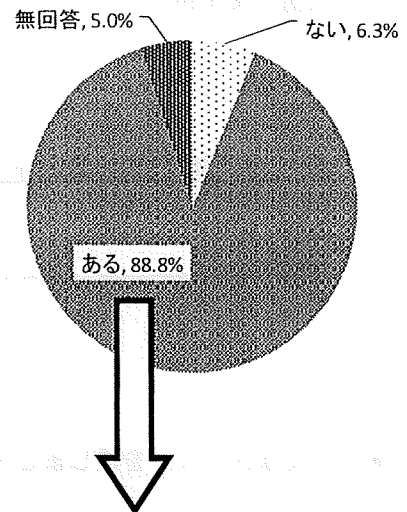


5. 同性愛に関する否定的な情報

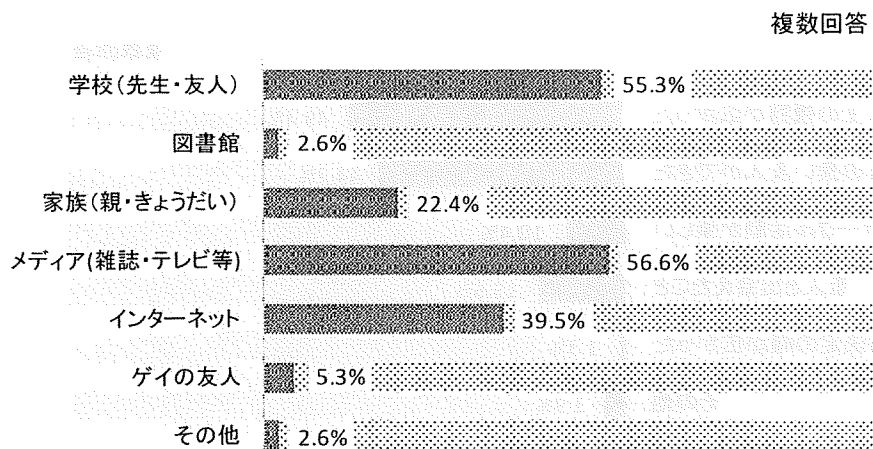
- これまで同性愛について否定的な情報を得たことがありますか？

表9 否定的な情報を得たことがあるか

ない	5	6.3%
ある	71	88.8%
無回答	4	5.0%
計	80	100.0%



- 主にどこで／だれから否定的な情報を得ましたか？

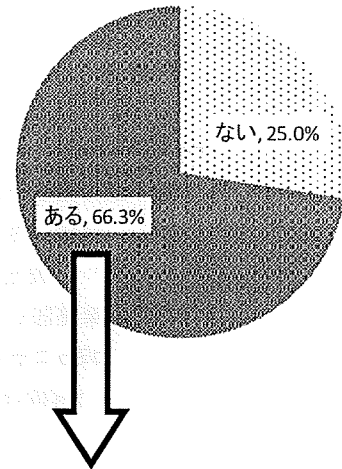


6. 同性愛に関する肯定的な情報

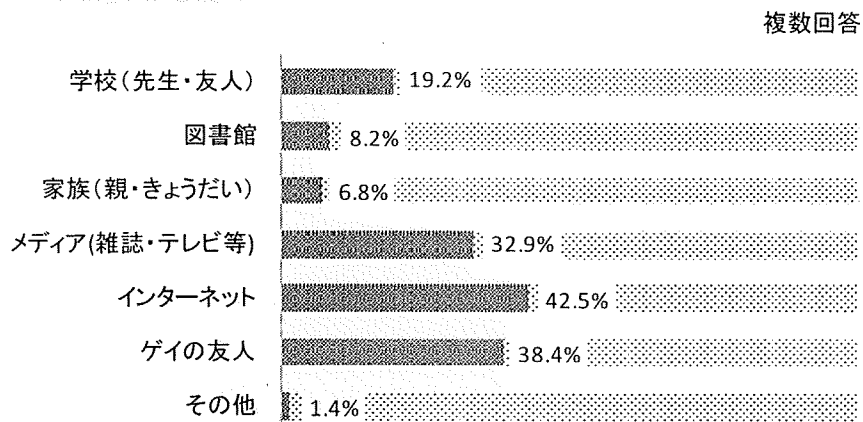
- これまで同性愛についての肯定的な情報を得たことがありますか？

表11 肯定的な情報

ない	20	25.0%
ある	53	66.3%
無回答	7	8.8%
計	80	100.0%

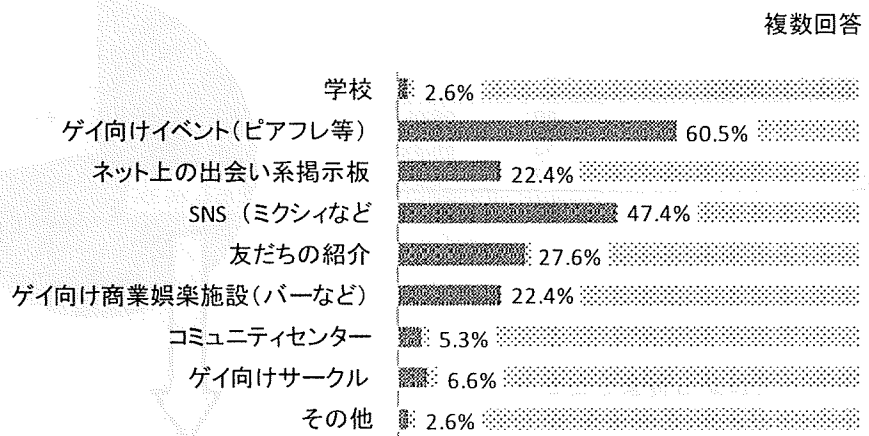


- 主にどこで／だれから得ましたか？



7. ゲイの友だちをつくる際に利用するもの

- ゲイの友だちを見つけようとする際、どのようなところ・媒体で出会いますか？



n=76 (無回答4人を除く)

※複数回答

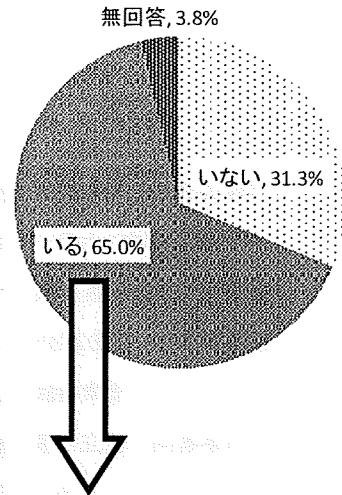
場所・媒体	割合
学校	2.6%
ゲイ向けイベント(ピアフレ等)	60.5%
ネット上の出会い系掲示板	22.4%
SNS (ミクシイなど)	47.4%
友だちの紹介	27.6%
ゲイ向け商業娯楽施設(バーなど)	22.4%
コミュニティセンター	5.3%
ゲイ向けサークル	6.6%
その他	2.6%

8. 「同性を好きである」ことによって生じる悩みを相談できる人

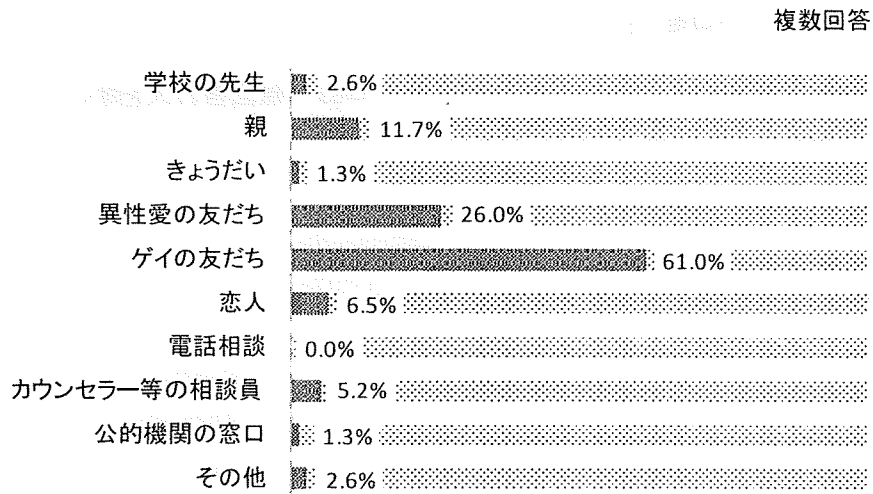
- 「同性を好きである」ことによって生じる悩みを相談できる人はいますか？

表13 性的指向による悩みについて相談できる人はいるか

いない	25	31.3%
いる	52	65.0%
無回答	3	3.8%
計	80	100.0%

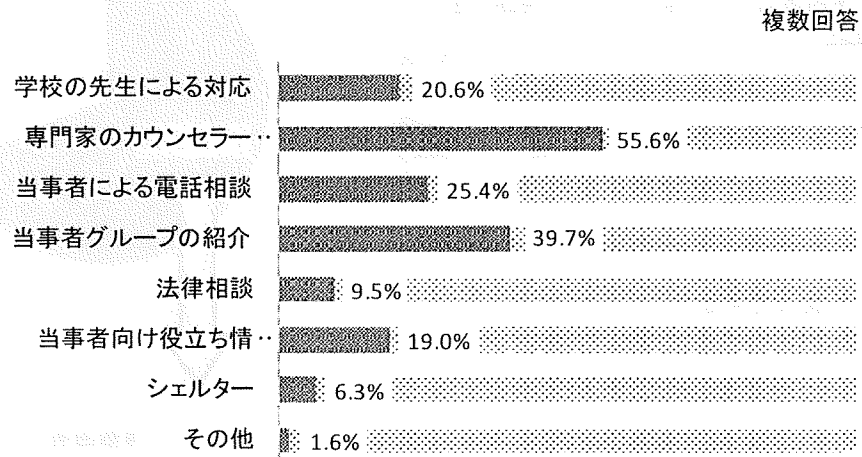


- どのような人ですか？



9. 公的機関（学校・行政など）による支援

- 公的機関（学校・行政など）による支援としてあったら使いたいと思うものを教えてください



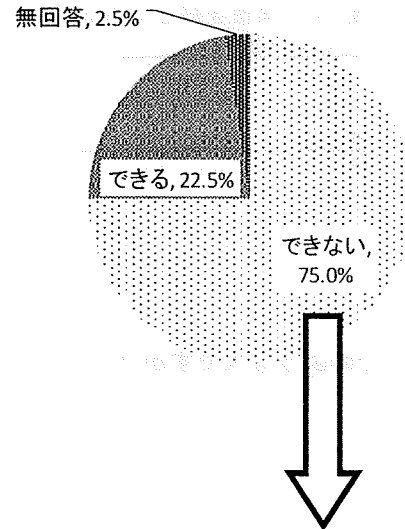
n=63（無回答17人を除く）

10. 公的機関に要望を伝えること

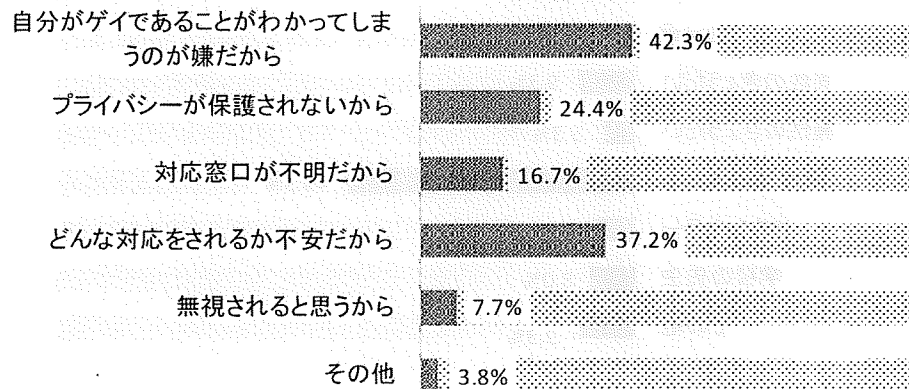
- 「同性を好きであること」によって生じる生活上の困難を解決する希望や要望（学校の授業で性的指向について扱ってほしい・公的機関に相談窓口をつくってほしいなど）がある場合、それを自分で公的機関等に伝えることができますか？

表17 公的機関への要望を伝えられるかどうか

できない	60	75.0%
できる	18	22.5%
無回答	2	2.5%
計	80	100.0%



- なぜ伝えることができないのですか？



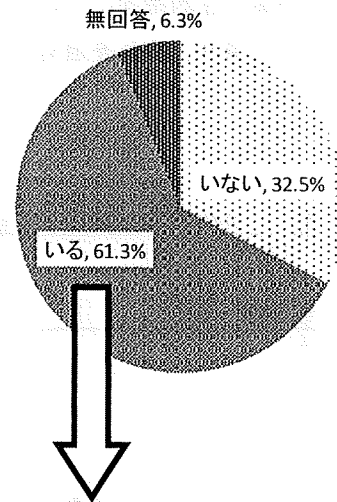
複数回答

11. カミングアウト

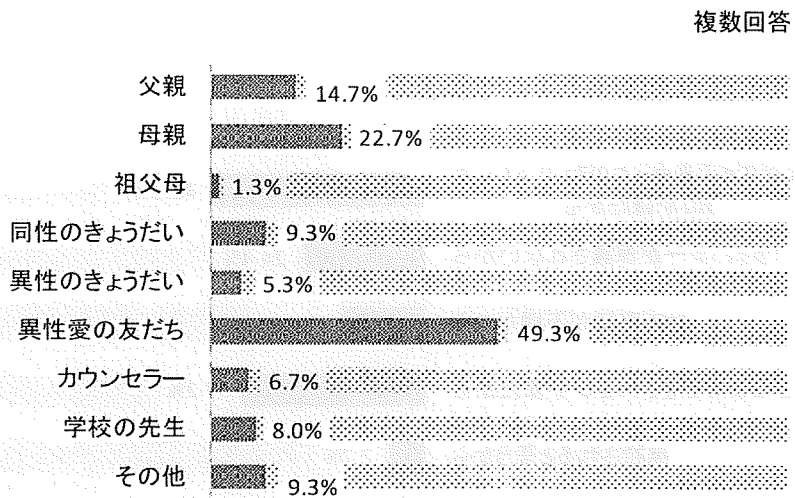
- 「同性を好きであること」を打ち明けている人はいますか？

表19 「同性を好きであること」を打ち明けている人はいるか

いない	26	32.5%
いる	49	61.3%
無回答	5	6.3%
計	80	100.0%



- どのような人ですか？

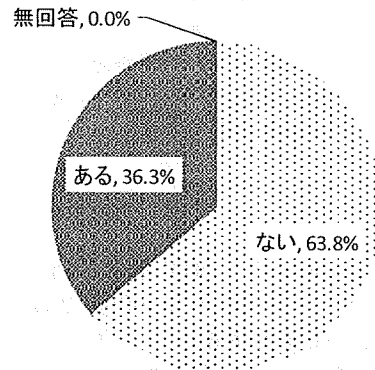


12. 自殺

- 「同性を好きであること」によって自殺をしたいと考えたことはありますか？

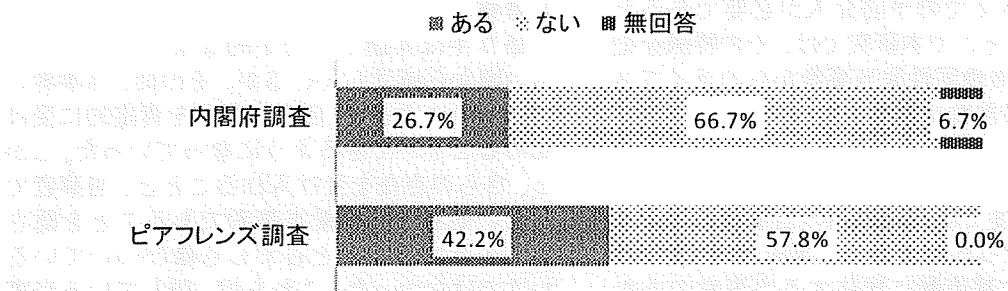
表21 「同性を好きなこと」によって自殺をしたいと考えたことはあるか

ない	51	63.8%
ある	29	36.3%
無回答	0	0.0%
計	80	100.0%



- 20代男性の自殺念慮率比較

* ピアフレンズ調査の協力者を20代（45名）に限定して集計



参考：内閣府「自殺対策に関する意識調査」2008

男性同性愛者からの聞き取り調査

研究代表者：加藤 慶（横浜国立大学大学院環境情報研究院）

研究協力者：石川大我（特定非営利特定法人ピアフレンズ）・福岡安則（埼玉大学教養学部）・黒坂愛衣（東京外国語大学）・神谷悠介（中央大学大学院文学研究科社会学専攻博士後期課程）・斎藤幸太（立教大学大学院コミュニティ福祉学研究科コミュニティ福祉学専攻博士前期課程）・佐藤太郎（早稲田大学教育学部学生）

研究要旨

男性同性愛者への HIV 感染予防介入を行うには、同性愛当事者の特徴を把握し、その特徴を踏まえたうえでの予防介入が必要であると考えられる。そこで本研究では、その特徴を把握するため、男性同性愛当事者からのライフストーリーの聞き取り調査を行った。平成 20 年度では沖縄県内の当事者の方より聞き取りを行ったことから、平成 21 年度では関東地方の大都市圏に居住する当事者の方からの聞き取り調査を行った。

A. 研究目的

男性同性愛者への HIV 感染予防介入を行うには、同性愛当事者の特徴を把握し、その特徴を踏まえたうえでの予防介入が必要であると考えられる。そこで本研究では、その特徴を把握するため、男性同性愛当事者からのライフストーリーの聞き取り調査を行った。

B. 研究方法

平成 20 年度では沖縄県内の当事者の方より聞き取りを行ったことから、平成 21 年度では関東地方の大都市圏に居住する当事者の方からの聞き取り調査を行う。

調査協力は、男性同性愛者のセルフヘルプグループであるピアフレンズの参加者に対して研究協力の呼びかけを行い、後日、聞き取り調査を行った。

・日程 2009 年 11 月および 2010 年 1 月

・場所 東京都世田谷区・神奈川県横浜市

なお 1 月は、かながわレインボーセンター SHIP との共催である。

C. 研究結果

語り手は、共通して子どもの頃からゲイであるという属性にむけられる外側からの否定的なまなざしを感受してきていた。これによって、自らの存在に悩む経験をしていた。

しかしその後、ほかの男性同性愛当事者との出会いによって、「自己の属性を隠さないですむ人間関係」や「おなじ属性をもつひとと出会

える場」と出会うことによって、自らの存在を肯定するようになっていった。

D. 考察

語り手は共通して否定的なまなざしを子どもの頃から感受しているが、その後、当事者との出会いによって、自らの存在を肯定的に受け止めることができるようになっていった。しかし、自らの存在を受け入れることと、当事者ではない他者と同性愛当事者であることを隠さずに生活することと必ずしも結びついているわけではなかった。これらは、隠している当事者、オープンにしている当事者ともに、当事者との出会いがともに重要であることを示唆するものである。

E. 結語

平成 22 年 3 月に沖縄県那覇市に開設したコミュニティセンター mabui の運営は、当事者によって担われており、当事者にとって安心して他の当事者と出会うことができる環境となっている。これらは、当事者にとって自らの生活に関する HIV を含む、さまざまな情報を得る機会を提供できるものであり、HIV 感染症の情報を既存の公共施設とは異なった形で発信することを可能とするものであると考えられる。

F. 発表論文等

（口頭発表）-国内
なし

後編 100-103

同様に、同性愛者に対する差別をなくすことは、社会の多様性を認め、すべての人々が生き生きと暮らせる社会をつくることにつながる。

同性愛者に対する差別をなくすことは、社会の多様性を認め、すべての人々が生き生きと暮らせる社会をつくることにつながる。

同性愛当事者のライフストーリー

同性愛者に対する差別をなくすことは、社会の多様性を認め、すべての人々が生き生きと暮らせる社会をつくることにつながる。

同性愛者に対する差別をなくすことは、社会の多様性を認め、すべての人々が生き生きと暮らせる社会をつくることにつながる。

同性愛者に対する差別をなくすことは、社会の多様性を認め、すべての人々が生き生きと暮らせる社会をつくることにつながる。

同性愛者に対する差別をなくすことは、社会の多様性を認め、すべての人々が生き生きと暮らせる社会をつくることにつながる。

フライト・アテンダントへの道—ある 30 代ゲイ男性からの聞き取り—

研究協力者：福岡安則(埼玉大学教養学部教授・博士(社会学))

黒坂愛衣(東京外国語大学非常勤講師・博士(学術))

佐藤太郎(早稲田大学教育学部学生)

渡邊 文(埼玉大学教養学部学生)

聞き取り概要

東京生まれの 30 代ゲイ男性のライフストーリー¹。匿名希望の A さんは、1977 年生まれ(聞き取り時点で 32 歳)。外国の航空会社の客室乗務員をしている。

ゲイ当事者の「自己アイデンティティ」および「自己肯定感」の問題をめぐって、この聞き取り事例から得られる知見として、以下の 2 点を指摘できよう。

① ライフストーリー聞き取りは、語り手に“自分がどのように生きてきたか”を語ってもらうものであるため、聞き手は、調査の主題となる事柄についてのみ質問するのではなく、むしろ、語りの展開に即し、さまざまな事柄についての質問を

することになる。今回の A さんからの聞き取りでも、聞き手は、調査の主題である彼のゲイという属性にかかわる事柄だけでなく、語りの展開に即すかたちで、さまざまな質問をした。それでも、調査の目的——今回であれば、ゲイ当事者から人生のお話を聞くこと——が、事前に語り手と聞き手のあいだで共有されていたわけだから、一般的にあって、その主題へと語り収束するはずだった。

にもかかわらず、A さんの語りは、どちらかといえば「ゲイとして」というよりも、「客室乗務員として」というほうに重心が置かれるものとなった。小学生のときからの夢をかなえるまでの努力や、現在の仕事について語る時、A さんはとくに生き生きとした表情をみせ、サービスのプロフェッショナルとしての自負を感じさせた。「ゲイである」ことではなく、むしろそのほかの属性のほうを自身のアイデンティティの核として生きている当事者が存在することを、A さんの事例は示している。

ひとは一般に、年齢/性別/職業/世代/出自/国籍/性的指向……といった数多くの社会的属性をもっている。そのなかのどのあたりに生活の重心をおき、自己アイデンティティの核とするかは、個人によってさまざまだ。それなのに、ある一面だけ——たとえば「ゲイである」ことだけ——を取り出して当該の個人をみてしまうなら、人間関係であればひじょうに抑圧的なものとなりうるし、社会調査であれば現実をとらえそこなうことになりかねない。その意味で A さんの語りは示

¹ 聞き取りは、2010 年 1 月 5 日、埼玉大学教養学部の演習室で、ちょうど 3 時間、おこなった。聞き手は、福岡安則、黒坂愛衣、ゲイ当事者の佐藤太郎と MtFGID 当事者の渡邊文。

音声おこしを「語り」として編集するにあたっては一人語りの形式を採用したが、聞き取り場面で語り手自身が口にしなかった言葉を、「語り手の言葉」であるかのように挿入することはしていない。どんな質問への応答であるかを示すために、あるいは、文意を通すために補った言葉は、すべて亀甲カッコ〔 〕に入れた。また、ルビの代わりに丸カッコ書きを用いたが、「同性愛(それ)」のように、語り手が発した言葉の「音」の再現と「意味」の伝達を両立させるために用いたばあいもある。

公表の許可を得るために、語り手に原稿を提示したところ、「みなさんの雰囲気は僕自身がすっかりリラックスしてしまい、個人的に公表を避けたい部分がいくつかありました。内容を一部修正した上で公表していただきたい」との返事をもらい、2010 年 2 月 19 日、ふたたび埼玉大学にご足労いただき、いっしょに修正・削除の作業をおこなったことを断り書きしておきたい。

峻的である。

② 語り手は、子どもの頃から、ゲイという属性にむけられる外側からの否定的なまなざしを感受してきた。子どもどうしのあいだでは異質な少数者にたいする“いじめ”の文化があった。さらに、同性愛を笑いものにするようなテレビ番組が流行っていたし、学校では異性愛を前提とした教育がされていた。Aさんは、小学校低学年の頃には自分の性的指向に気づいていたが、そのことを「他人には言わないほうがいい」と思っていた。また「男性どうしてつきあうという概念がなかった」とも語っている。

こうした経過がありながらも、Aさんは現在、自身が「ゲイである」ことを否定的に受け止めてはいない（友人の主宰する当事者活動の手伝いをしていることから、それがわかる）。Aさんの語りからは安定した自己肯定感がうかがえる。その背景には、子どものときから将来の夢を強くもち努力を重ねて実現してきたという彼の特質のほか、就いた職業がたまたま「ゲイが多い」世界だったという偶然（幸運）もある。働き出してからは学生時代の友人とはしぜん疎遠になり、現在は、自分がゲイであることを知っている人との交友関係が中心である。広がったネットワークのなかで同性との交際も経験した。両親へはすでにカミングアウトしている。現在、ゲイであることの苦勞は「あまりない」とAさんは語る。ゲイ当事者にとって、“自己の属性を隠さないですむ人間関係”や“おなじ属性をもつひとと出会える場”がいかに重要であるかを示唆する事例である。

小学校低学年で好きになった子が男子だった——誰にも言わないでおこう、と

1977年〔生まれ〕。〔いま32歳。〕東京で生まれました。

父親はサラリーマンです。もう定年退職〔しましたけど〕。〔母は〕専業主婦です。〔きょうだい〕は弟が1人。2つ違いです。

〔自分がまわりにいる多くの子どもたちとはなんか違うなっていうことは〕けっこう小さいときに、気がついてましたね。自分が好きになる対象が男の子だっていうのは、小学校の低学年ぐらいには。はい。自分が、あつ、この子が好きだなと思った対象が、たまたま男の子だった。〔それで〕みんなと違うっていうので、まあ、言わないほうがいいんだろうなっていうのを、子どもながらに〔思って〕。〔ずうっと誰にも〕言わなかったですね。

幼稚園は3年〔行きました〕。ふつうに、まあ、遊んで。昼寝が嫌いでしたね。幼稚園って、お昼寝の時間とかありますよね。ぜんぜん昼間眠れなくて、あれがすごく苦痛だったのを、いま思い出しました。いちおう、布団のなかに入って。なんで、この1時間、横になって目をつぶってなきゃいけないんだろう、っていうのを、ずっと思っていましたね。

〔あとは〕受付の台が高くて困るなっていうの思っていました。幼稚園の受付が、先生を呼ぶのに、そこから呼ぶしかないんですけど。なんて効率が悪いんだ、っていうのをずっと。〔思い出すのは〕そのくらいですかね。

当時はあまり物怖じしなかったですね。いまは、なんか、あまり知らないひとにはかかわらないほうがいいかな、と。だれかの友だちとかだったら、安心ですけど。あまり知らないひとと仲良くなろうという感じでは、最近ないですね。〔それは〕とくに、社会人3年目ぐらい〔から〕ですかね。

小学生のときは、剣道をやってました。嫌いでしょうがなかったです。従兄がやっていて、話の流れで、「じゃ、やろっか」と一言いったら、ほんとにやることになって。冬は寒いですし。面をかぶると、子どもって、なぜか、顔がすごく痒くなるんですよね。搔けないっていう意識があるからか。で、しょっちゅう、こう、鉛筆で〔お面の〕中を搔いたりして（笑い）。3年生ぐらいから6年生までやってました。〔でも〕強くならなかったで

す。剣道にあまり興味がなかったんですよね。剣道で強くなりたいというのもべつになく。ほんとに、なんか、とりあえず、まあ、行くかあ、と思っ
て行って、1時間半とか2時間とか、はやく終わらないかな、ってことだけを考えてましたね。
はい。

我慢強いのかと言われると、最近、そんなことないと思いますね。大人になって〔からは〕プライベートではあまり我慢をしなくなったかもし
れない。いま思い浮かんだ例が、単純なんですけど、行列ができてたら、もういいや、とか。

〔友だちは〕男の子の友だちと遊んでました。自転車とかよく乗って、みんなで遠出をしたりとか。
あと、ローラースケートがすごく流行った時代で。つるんで。みんなで乗って遠出をしたりとか。ま
あ、でも〔遠出と〕言っても、隣の駅ぐらいなんですけどね。

〔学校では〕クラスに激しいいじめはなかったです。なんかいじめられてる子がいたのは、おぼ
えてます。ちょっと、なんていうんだろう、体格がちいさくて、勉強もあまり得意じゃなくて、言
葉がすぐ吃ってしまう子がいたんですけど、その子がクラスでからかわれてたのと、あと、女の子
で1人……。〔いじめって〕度のすぎた、なんだろう、からかいですかね。無視とかではなかったで
すね。女の子のなかに、1人、男の子から避けられている子がいましたね。その子はたまたま痣(あ
ざ)があったかなんかで。小学校と違って、そういうのがすごく……。いま考えると、なんでそんな
ことをみんなが言ってたんだろうってあれですけど。それぐらいですかね。休みの日もクラス全体
で出かけることも多くて、けっこうクラスは仲良くしてましたね。

〔勉強は〕あまり。地理とかは好きだったんですけど。算数が大嫌い。〔成績は〕まあ、中ぐらい
ですかね。

〔マンガですか?〕うちにあったマンガは『キン肉マン』がすごく多かったんですけど。ぜんぜん

『キン肉マン』、好きじゃなくて。弟がすごく好きで。でも、なんか、とりあえずあるから読んでいたのと、あと、『月刊コロコロコミック』とかは読んでいたけれども、なにがあったか、あまりよく覚えてない。弟が買っていて、家にあるから読む。そういうのが多かったですね。

テレビは、小学校のとき、なんか、ドラマを見てたのを覚えています。〔テレビを見る時間は〕長くはなかったですね。けっこう早寝でした。あまり遅くまで起きてなかったです。最近の子どもが夜遅く、すごいちっちゃい子が出歩いているのを見て、あー、そうなんだ、って、けっこうびっくりするぐらいに、早く寝かされてましたね。

ファミコンは、やりました。「ドラクエ」と「スーパーマリオ」と、あと、「チャレンジャー」、すごい初期のころの。〔ファミコンも〕1時間とか決められてましたね。父親は仕事で夜遅かったので、母親が「1日1時間」とか決めてました。

〔父親は〕けっこう温厚ですね。よっぽどじゃないかぎり、怒らない感じで。家の中でなにかが起こったら、だいたい怒るのは母親なんですけど。まあ、よっぽどのときには、父親が怒るっていう感じですね。

〔父親に怒られたのは〕小学校2、3年とか、そのぐらいですかね。小学校のころから〔ぼくは〕理由がわからないで、物事をするのが嫌でした。けっこう、車酔いをする体質だったんですけど。遠出をしたときに車に酔って。「とりあえず出なさい」って言われたんですけど、なんで出なさいいけないのかわからない。べつに、出たところで吐き気がおさまるわけじゃないし。いま考えれば、吐くんだったら、車の外に吐いてほしい、っていうことなんですけど(笑い)。親がそれを言わないから、べつに出たところで治らないから出ない、と思って。でも、それを話すほどの元気もなく、けっきょく、車内で吐いて。吐いたあとに、「吐くんだったら……」って言われて。だったら先に言ってくれば出たのに、って思うことがあったん

ですけど。けっこう、いまでも、なにに何をしないでください、だけだと、なんで、っていうのをよく[思いますね]。なににだから、これをしないでください、だったら納得できるんですけど。結論だけだと、いまだに納得できないことが多いですね。

[母親]のほうが、うるさかった印象がありますね。「宿題しろ」とか。まあよく言えば、教育熱心。実を結ぶことはなかったですけど。

弟とは、あまり趣味が似てなかったですね。小さいころは一緒に遊んでましたけど、小学校中学年くらいからあまり一緒に遊ぶこともなかったですね。

小6で客室乗務員に憧れて

[将来、何になりたいと思ってたか、ですか?]
小学校6年生のときに、はじめて国際線の飛行機に乗って、ハワイに行ったんです。それまで飛行機は、男性はパイロットで、女性はスチュワーデスと思っていたら、客室乗務員のなかに男性がいて……。小学校5年生のときまでは、電車の車掌さんになりたかったんですね。小学校6年生のときに、男性の客室乗務員を見て、あ、これになりたいと思って、それからずうっとそうでしたね。はい。飛行機の特長性がまず好きで。なんか、限られてる空間じゃないですか。で、そのなかで、けっこう、なんでもできてっていう特長性と、あと、なんか、機内サービスの、あのカートから出てくる物とか、ああいうのに憧れて。

[そのときのハワイへの便は]覚えています。ノースウエストで行きましたね。[サービスは]子どもだったので、その善し悪しがあまりわからなくて。なんかもう、ただ、ご飯とか飲み物をいろいろ出してくれることに、すごく満足して、楽しんでましたね。[その旅行は]祖父と家族4人で。1週間ぐらいですね。[うちは]田舎がなかったの。同級生は夏休みに田舎に帰ったりとかしてたんですね。それがなくて、まあ、その代わり。

国内線も、その前に乗ったのは、小学校5年生のときに、四国に行ったぐらいですね。泊まったのは[どんなところだったのか]ぜんぜん記憶ないですね。飛行機は覚えてました。全日空のトライスターでした。子どもながらに、ジャンボじゃないのかあつてがっかりしたんです、当時は。

[小6でキャビンアテンダントになりたいと思ってから、気持ちが揺らいだことは]ないですね。必死に頑張ればなれる、といまは思います。前の会社にいたときに、大学生の就職指導をしたんです。頑張れば、ほんと、なれると思うんですね。自分も、就職活動をした頃はできることは全部しました。英語もだし、面接対策とか履歴書書くのとかも、もっとやろうもっとやらなくちゃって。自分の中で妥協したら絶対なれないだろうっていうのがあつて。ただ、自分が指導をする立場になったときに、なんか、なりたいて言ってるわりには頑張っていない子が多いなとは思いましたが。ほんとになりたいのか、なればラッキーなのか、どっちなんだろうっていう子が多くて。もったいないなあつて思いました。

自分は社会の主流じゃない、と

[中学のときの友だちですか?]
中学校でいちばん仲良かった友だちは、当時、おたがい、そうだっていうカミングアウトはしてなくて……。大人になって、まあ、ゲイだったというのがおたがいわかって。当時はおたがいにゲイどうしだとわかってなかったですが、でも実際はゲイだった子がいちばん仲良かったですね。話をしてて、すごく[気が]あつたんですよ。——うちの中学校は2つの小学校から来てたんです。[彼は]もうひとつの小学校から来ていて。好きにはならなかったです。アハハ。気はあいましたね。

[当時、言葉として]「同性愛」は、あつたんじゃないですかね。「ホモ」とか、なんか、よく聞く単語としてあつて。まあ、自分がそこに属するんだろうなと思ってましたけど。あの、[フジテレビ

の)「仮面ノリダー」とか、保毛尾田保毛男(ほもおだほもお)とか「とんねるずの〔みなさんのおかげです〕」[っていう]コメディでやってたところに、「ホモ」という言葉がすごく周知された感じじゃないですか。あのころに、ああ、自分はホモなんだなど。中学校のときにはすでにもうブレイクしてたんで、[見始めたのは]小学校ですね、たぶん。小学校のときに、先生たちとみんなで行く公園に行き、ちょっと小高い山とかで、みんなでワイワイやってるところで、なんか、保毛尾田保毛男の真似をしてる子がいたので。

〔自分はそこに入るんだろうな、って思って、そのことは〕他人(ひと)には言わないほうがいいんだろうな、と。円滑に、この先、生きていくにあたって。——それを隠していることにたいして、自分のなかでストレスも、べつに感じず。まあ、言わなきゃいいだけなんだっていう感じでしたね。

〔学校での性教育ですか?〕ありましたね。小学校高学年のときに、男女別に体育館とかに集められたのと、あと、中学校、高校の保健体育とかですね。でも、中間テスト、期末テストのために聞いているって〔いう感じ〕。教科書にこう書いてあるからテストでこう答えようみたいな、そういう感じでしたね。〔エイズの話は〕あまり記憶に残ってないですね。

〔異性を愛を前提とした教育がされることについては〕自分が社会の主流じゃないっていう意識があって。だから、教科書に同性愛(それ)が書いてなくても、違和感もなく、まあ、そういうものだろうと。

英語の勉強にうちこむ

〔中学校のときは〕この仕事に就きたいっていうのだけがあって。で、この仕事に就くために、英語を勉強して。早く大人になって、できれば、クルーの仕事をしたくて。でも、たぶん、かなわないだろうと、自分のなかで思っていて。でも、空港とか航空会社で働きたいってのがあって。

そのためには早く大人になりたかったんですね。中学校、高校の頃は、早く卒業したいなと思っていて。それなりに楽しかったですけど、人生のなかで、なんか、通過点的に当時は思っていました。

客室乗務員には、たぶんなれないと思ってたんですね、その当時は。無理だろうと思ってたけど、でも、なりたいていうのはあって。客室乗務員になれなければ、空港の職員だとか、あとは、本社とか、チケットの発券するひとだとか、そういうエアライン関係では仕事がしたいなっていうのは思ってたね。〔乗務員でも〕キャビンアテンダントだけに興味があって。パイロットには興味がなくて。〔ひとにサービスをする仕事が〕したかったんですね。〔かつ〕飛行機。車掌さんは、大学時代の就職活動では選択肢にはなかったですね。車掌さんとかは受験しなかったです。

〔ぼくは、むかしから〕気がつくことに興味があったんだと思う。中学校って給食だったんですよ。うちの中学校は給食台があって、給食台にスープとご飯とおかずとかが並んで、みんな、セルフサービスみたいな感じでいってたんですけど、〔ぼくが〕何人かの配膳して配ってたなら、先生がはじめられてるんだと思ったらいいんです。でも、それ、ぜんぜん、いじめとかじゃなく。それをやるのが楽しくて自分からやってあげるよってやってたんですね。けっこう興味はあったんだと思う、気づいたり、サービスをすることとかに。

〔英語は得意だったか、ですって?〕好きでしたね、あと、英会話とかも楽しく。やってたいちばん根っこには、クルーになりたいからやんなきゃいけないというのがある。〔英会話の勉強は〕小学校6年生のときに、近くで、週1回、外国人の先生が教えてくれるっていうのに、少し行ったんです。中学校に入ってから、英会話スクールに行き。中学生だと基礎知識があるじゃないですか、学校での。だから、伸びたかなと思いますね。

部活? 何やってたんだろう? 中学校のときに、最初に、友だちとテニス部に入って、「あわないか